

2019年度 事業計画書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

2019年度 活動テーマ

三位一体のデザイン型共創社会にむけたアクション ーヒーブ視点の実践ー

2018年度は、活動テーマ「次世代へつなぐ、これからのヒーブー生活者視点と多様性を企業で発揮するー」にもとづき、生活者視点をビジネスで実践しながら、新しい価値を生む活動を継続した。また40周年記念事業として、シンポジウムの開催や記念誌の発行を通じ、改めてヒーブの強みを再認識したうえで将来を描くことに取り組んだ。

2019年度は、昨年度の提言にもとづき具体アクションを起こしていくスタートの年である。将来をデザインし、共に創る「デザイン型共創社会」を見据え、活動テーマを「三位一体のデザイン型共創社会にむけたアクションーヒーブ視点の実践ー」とした。ヒーブ視点つまり生活者視点と経営視点をさらに強化し、生活者・企業・行政が共に創る社会においてヒーブがリーダーとして発信していくことを目指し、5年後10年後に向けた活動を実践していく。

【2019年度の活動方針】

- ① デザイン型共創社会を見据え、45周年に向けた具体アクションを策定する
- ② 東京・関西・九州の連携を強化し、組織の活性化ならびに拡大に努める
- ③ 消費者行政・関連法の最新動向、企業に求められる実践的な消費者対応力、ダイバーシティ推進等に関する学習を通じて、会員の資質向上と満足度向上に尽力する
- ④ 会員間およびヒーブOGとの連携、他団体や行政関係との積極的な交流や合同イベント等を行うことで、会員のネットワークと視野拡大の機会を増やす
- ⑤ 行政との連携を強化しながら、消費者志向経営と男女共同参画をテーマとした活動を展開し、ヒーブの認知度向上に努める

2019年度代表理事 梶原 織梨江

I. 2019年度事業計画

【グループ活動（東京本部）】

1. 企画グループ

【活動目標】

- ・会員が、ヒーブ視点を活かしてより良い仕事をするための能力向上を図る
- ・会員が、業種・職種を超えたネットワークを構築できるようサポートする
- ・会員ならびに所属企業の期する活動目標を達成できるようサポートする
- ・当協議会の認知度を高め、活動内容を広く公開し、様々な分野との交流を深める
- ・会員拡大、活力ある組織運営、有意義な活動を実現し、当協議会の責務を果たす

(1) 活動目的

- ① 代表理事の諮問機関として、代表理事を補佐し協議会運営が円滑に行われるよう努める
- ② 活動テーマにもとづき、各支部が地域性を活かしながら運営できるよう支援し、本部と各支部の連携を通じて、組織の活性化を図る
- ③ 行政・関連団体等との交流・情報交換に努めるとともに、当協議会の認知度を高める
- ④ 当協議会の中長期ビジョンを展望し、実効的な活動方針の策定と改革を実施する
- ⑤ 会員の能力向上に向けて、自主的な研究活動を支援する
- ⑥ 当協議会のシンクタンクとしてテーマを定めた基礎研究を進め、情報の蓄積と成果を発信する

(2) 活動内容

- ① 今年度の活動テーマにもとづいた効果的な活動を実施する
- ② 時代にあった協議会運営に向けて、組織体制や運営方法について適宜改革する
- ③ 支部活動の円滑な運営に向けて、各支部と積極的な交流・情報交換を実施する
- ④ 期中に発生する課題・提案に対して、適宜対応する
- ⑤ 生活者・企業・行政の共創社会に向けて、行政や関連団体と積極的に協働する

2. 研究会推進グループ

(1) 活動目的

- ① 会員の能力向上
協議会活動を通じて、知識・スキル・感性を磨き、その成果を企業・社会にフィードバックできる月例研究会等を企画・運営する
- ② 協議会活動への参加促進
月例研究会の企画・運営や分科会活動、自主研究会活動に会員が積極的に参加できる運営を構築し、会員および会員企業のニーズに沿った月例研究会等を開催する
- ③ 会員・会員企業・会員外企業とのコミュニケーションの促進・支援
会員・会員企業間のネットワーク作りを支援するとともに、有識者や行政、会員外企業等に講

師・見学会等を依頼することで多方面との交流を図る

(2) 活動内容

① 総会・公開講演会の運営

- ・4月に総会および公開講演会を企画・運営する
- ・公開講演会を開催する月を適宜設け、当協議会の対外的な認知度を高める

② 月例研究会の運営

- ・有識者・企業・行政等による講演会や企業見学会等を中心に、月例研究会を企画・運営する

③ 分科会・自主研究会活動の推進・運営

- ・「月例会企画・運営分科会」「調査・生活者関連情報分科会」「お客様対応を考える分科会」「商品・サービス研究分科会」の4つの分科会活動を行う
- ・分科会活動を通じて、知識面・実践面で即戦力となるスキル向上を目指し、各分科会の活動を支援する
- ・月例研究会での分科会活動時間を効果的に確保し、活動を支援する
- ・活動成果を会員・会員企業等に報告するとともに、企業や社会に対する情報提供を支援する

【スケジュール（予定）】

| | |
|-------------------|-------------------------------|
| 公開講演会 (公開講座含む) | 4月 1月 |
| 講演会 | 5月 6月 7月 10月 11月 12月 2月 3月 |
| 見学会 | 9月 |
| 分科会活動 | 5月 6月 7月 8月 10月 11月 12月 2月 3月 |
| 自主研究会 | 随時 |

3. 組織の活性化を図るグループ

(1) 活動目的

協議会の活性化を目的として、協議会の基盤整備を行い、会員自らが積極的に活動できるよう支援する

(2) 活動内容

① 会員の拡大と活性化

- ・会員拡大に向けた具体的な戦略活動を構築し、展開する
- ・各支部の運営委員と連携し、その運営をサポートする
- ・会員が主体的に参加できる活動を積極的に展開する
- ・会員名簿を更新し、会員の業務に活かせるネットワークの促進を図る

② 諸規則の見直し

- ・協議会の円滑な運営を目的として、現状に則した内規類の見直しを実施する

③ 会員活動の推進

- ・全会員が協議会運営に参加し、会員活動の活性化につながるよう役割を明確化する
 - ・選挙管理委員会、プロジェクトを擁立する場合は、全会員から募集を行い参画意識を高める
- ④ 交流の場の提供
- ・月例研究会等にあわせて交流会を積極的に開催し、より多くの会員との交流の場を提供する
- ⑥ 会員へのガイダンス
- ・協議会に関する理解を深めるため、5月の月例研究会またはその前後でガイダンスを実施する
- ⑦ 「理事会だより」のホームページ掲載
- ・理事会の議題の中からトピックスをまとめ、会員に報告する
- ⑧ 理事・監事選挙
- ・選挙管理委員会の運営を補助し、選挙活動が滞りなく進むよう補佐する

4. 広報グループ

(1) 活動目的

- ① 協議会の存在およびその活動を広く外部に報せ、理解促進・認知度向上を図る
- ② 生活者と企業のパイプ役を果たす場を支援し、生活者と直接交流を図る活動を促進する

(2) 活動内容

- ① 情報発信
 - ・社会に向けて協議会の活動を積極的に発信し、協議会の認知および理解を高めるとともにマスコミからの問い合わせに対応する
 - ・会員及び会員企業に対し、協議会の活動を効果的に知らせ、理解を高めることにより活動の促進を図る
- ② 広報誌の作成
 - ・協議会の活動目的と活動内容および参加企業を広く紹介するためのツール「What is HEIB?」と機関誌「レポートヒーブ」をそれぞれ年1回作成する
- ③ ホームページ・フェイスブックの運営
 - ・外部へ協議会活動をタイムリーに発信するために情報収集を行い、魅力あるホームページ・フェイスブックの作成ならびに維持管理を目指す
 - ・ホームページ上の「メンバーズコーナー」ページにて月例研究会の活動状況等、会員への情報提供を迅速に行い、会員間のコミュニケーションや情報収集に役立つコンテンツを充実させる
- ④ 生活講習等
 - ・講師の派遣等を通じて生活に役立つ生活情報を提供し、協議会の社会的認知度を高める

5. 調査グループ

(1) 活動目的

- ① 協議会の活動に沿い、社会や会員企業に役立つ生活者情報を収集・分析し、会員及び会員企業の業務に役立てる

- ② 情報収集・分析・活用といった情報リテラシーを高めるとともに、調査ノウハウを習得し、実務に活かせるようにする

(2) 活動内容

- ① 社会調査や分析手法、結果の表現ノウハウの習得
 - ・官公庁データ等の情報ソースや情報収集方法についての勉強会を実施する
 - ・調査・分析手法について学び、会員調査に活用、実践する
(会員満足度調査、来場者アンケート等の作成、分析)
- ② 会員及び会員企業への情報発信、サポート
 - ・会員の業務、企業に活かせる成果物を検討し、収集・加工・共有化を図る
 - ・分科会活動内容を計画し、活動の全体像を明確にし、参画効果やメリットを可視化する
- ③ 40周年記念誌を通じて見出した課題について研究・分析を行う

【支部活動】

1. 関西支部

(1) 活動目的

- ① 月例研究会活動を通じて、会員一人ひとりが「現状認識からの問題提起」「解決に至るまでのプロセス管理」「プレゼンテーション力」等の能力・資質向上を目指す
- ② 会員相互のコミュニケーションを深めて相互に影響し合える関係を構築し、業種・職種を超えた“ネットワークづくり”を促進する
- ③ 生活者視点やヒーブで学んだ成果の業務への貢献を追求して、ヒーブの存在価値を再認識する。
- ④ 支部を超えての会員相互、OGとのつながり、関西支部エリアでの行政・他団体・大学生等とのコミュニケーションを図る

(2) 活動内容

- ① 月例研究会活動
 - ・前年度の振り返りミーティングでの意見を反映した「月例研究会運営マニュアル」に沿って、全員で運営を行いつつ活動する
 - ・会員の資質向上のみならず、業務へフィードバックができる研究会活動を目指す
 - ・課題を解決して「月例研究会運営マニュアル」を適宜改訂し、効率的な支部運営を行う
 - ・会員全員が月例研究会の運営に参画し、企画・運営のスキルを身に付けると同時に、会員同士のネットワークを強化する
 - ・公開・セミ公開講座を開催し、会員企業への貢献度および協議会の認知度を高める
- ② 広報活動
 - ・他団体・行政・大学等との交流によりヒーブの認知度を高める
 - ・ヒーブ視点での情報発信を積極的に行い、新規会員の獲得に努める
- ③ 組織活動
 - ・会員の協議会に対する理解を深め、積極的に会員活動が行えるよう、ガイダンスミーティング、

情報交換会を継続して行う

- ・協議会活動は会員一人ひとりの参加からなることを認識し、全員参加型の活動を実践する

【スケジュール（予定）】

| | |
|-------------------|---------------------|
| 公開講演会 (公開講座含む) | 5月 1月 |
| 講演会 | 6月 7月 9月 10月 11月 2月 |
| 見学会 | 8月 3月 |
| 自主研究会 | 随時 |

2. 九州支部

2020年にはSDGsオリンピックとも言われている東京オリンピック、そして2025年には大阪万博が開催予定であり、国内におけるSDGsへの関心がさらに高まることは必須である。これまで以上に、サステナビリティが企業経営に求められる社会環境の中、三位一体での共創社会実現にむけて、九州支部も活動テーマ『三位一体のデザイン型共創社会にむけたアクションーヒーブ視点の実践ー』に則り、会員のスキル向上だけでなく地方創生・地域活性化への貢献を意識した活動に取り組む。

(1) 活動方針

- ① 日本にとって2019年はSDGsが今まで以上に注目され、すべてのセクターがより関心を持って取り組むタイミングであることを鑑み、ヒーブ視点のSDGsの公開講座を行う
- ② 会員相互のコミュニケーションを深め、活力ある組織づくりに尽力する
- ③ 会員のスキルアップ向上の一環として、電話対応技能検定（もしもし検定）を運営する
- ④ 男女共同参画の意識を高めるため、内閣府の事業に応募し実施を目指す
- ⑤ 行政機関との連携、地元企業との連携を深め、九州支部の認知度向上と会員拡大に取り組む

【スケジュール（予定）】

| | |
|-------------------|---------------|
| 公開講演会 (公開講座含む) | 6月 10月 12月 2月 |
| 講演会 | 7月 11月 3月 |
| 見学会 | 8月 |
| 自主研究会 | 随時 |

【九州支部 ヒーブのクレド】

人間力のある企業とは何かを考え、そのために行動します。

人間力あふれる地域の生活者として、考え、行動します。

一人の女性として、人間力を高めるために行動します。

Ⅱ. 予算

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 | |
|----------------------|-----------|-----------|
| 前 期 繰 越 金 | | 677,121 |
| 会 費 | | |
| 正 会 員 80 名 | 4,800,000 | |
| 個 人 会 員 9 名 | 162,000 | |
| 小 計 | | 4,962,000 |
| 入 会 金 | | |
| 正 会 員 5 名 | 150,000 | |
| 個 人 会 員 1 名 | 5,000 | |
| 小 計 | | 155,000 |
| 賛 助 会 費 36 口 | 1,800,000 | 1,800,000 |
| 雑 収 入 | | |
| 預 貯 金 利 息 | 0 | |
| 特 別 例 会 費 | 465,000 | |
| そ の 他 | 588,000 | |
| 小 計 | | 1,053,000 |
| 収 入 合 計 | | 7,970,000 |
| 総 合 計 | | 8,647,121 |

<支出の部>

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 | |
|--------------------|-----------|-----------|
| 活 動 費 (東京・関西・九州合計) | 3,740,000 | |
| 東京 | 2,600,000 | |
| 企画活動 | 340,000 | |
| 研究会推進活動 | 1,170,000 | |
| 組織の活性化を図る活動 | 165,000 | |
| 広報活動 | 925,000 | |
| 調査活動 | 0 | |
| 関西 | 730,000 | |
| 九州 | 410,000 | |
| 運 営 費 | 4,230,000 | |
| 地代家賃 | 610,000 | |
| 人件費 | 1,750,000 | |
| 税理士報酬 | 360,000 | |
| 運賃・通信費 | 360,000 | |
| 交通費 | 540,000 | |
| 会議費 | 10,000 | |
| 消耗品費 | 240,000 | |
| 印刷費 | 160,000 | |
| 支払手数料 | 60,000 | |
| 交際費 | 10,000 | |
| 租税公課 | 120,000 | |
| 雑費 | 10,000 | |
| 支 出 合 計 | | 7,970,000 |
| 当 期 剰 余 金 | | 677,121 |
| 総 合 計 | | 8,647,121 |